

☆☆☆ Library Eye 2022 ☆☆☆

第28号 2022年7月1日(金)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【子どものコップは小さい！】

私の中学・高校時代を振り返ってみると、授業と部活動が生活の二本柱で、鞆の中身も、弁当、教科書、ノート、といった程度でした。

ところが、現在の中・高生はどうでしょう。この他に、iPad、スマホ、副教材、受験参考書、単語帳、手帳、マイボトルと、その鞆の重いことといたら：学びの内容も多様化し、生徒たちの学校生活を見ていると、それこそ、情報とノルマの「激流」に立って必死で足をすくわれまい、と踏ん張っている印象すらあります。

昭和30年代、スクールバスが走りだした頃、評論家の唐木順三が「気の毒なものだなあ」、子どもたちは「途中の楽しみというものを喪ってしまった」(『現代史への試み』)と嘆いたことがありました。家と学校とを往復する、その《途中》こそ「教室では学べないものを、おのづからにして学びとる場所」であった、と言うのです。

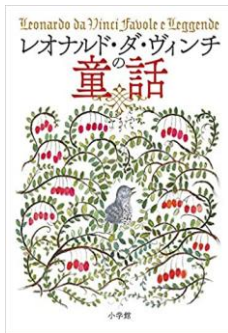
予測不能と言われる21世紀は、今日の「正解」が、かならずしも明日の「正解」とはなりえない時代です。したがって、学校教育も特定の目的地を目指すのではなく、その《途中》をいかにして豊かで多彩なものにしていくか、という方向も考えていく必要があるでしょう。

子どものコップは大人が思うよりもずっと小さいものです。樽の中で何年も寝かせたワインが、やがて香気豊かな美酒となるように、子どもたちにまったく縛りのない時間を持たせてあげることで、21世紀型スキルの原点とも言うべき《好奇心》を育むことにもつながっていくのではないのでしょうか。

「悠々として急げ!」(開高健・作家)

「すぐに役立つ知識は、すぐに役立たなくなる」(小泉信三・慶應義塾大学・元塾長)

【図書館を散歩してみませんか?】



国語科教諭という仕事柄、入試問題を読む機会が多いのですが、毎年、発行される『全国大学入試問題正解』は愛読書の1つです。なんといっても、そこには自分では手にとることもないような書籍から引きだされた文章の切り口が生々しく見えたり、そこに書かれている人生観・世界観などの披瀝の一つ一つに共感すると共に、こんな見方、考え方があったのかと驚いたり、まさに発見の連続なのです。

たとえば、最近、面白く読んだのが『人が走るとき』(稲垣利徳)です。古典文学に描かれる「走る」行為を調べると、奈良朝から王朝の時代にかけて日本人は、ほとんど「走らない」民族で、例外的に「走る」場合は笑いの対象とされることが多かった、というのです。あるいは、大学生の頃に、2000年近く前に書かれた『ガリア戦記』

が読めると思うと「わくわくするほどの興奮」を覚えた(『ガリア戦記からの出発』阿部隆也)という述懐にぶつかって、君もそうか、と思わぬ場所で旧友に出会ったような喜びを感じずることもあります。

今日は、点検も兼ねて、ぶらぶらと書架のあいだを見てまわっていたら『レオナルド・ダ・ヴィンチの童話』という本に出会いました。あなたは童話まで書いていたのですか、とダ・ヴィンチの多才ぶりに、あらためて驚きながら数行読んでいくと、500年前に執筆しているダ・ヴィンチがすぐそばにいて、その息遣いや体臭までもがまざまざと感じとれそうでした。

いつも走ってばかりいないで、ときには「歩く」ことで、違った気色が見えてくるものなのですね♪



【生徒おすすめの本が常設に♪】

図書館の展示コーナーに”生徒おすすめの本“があるのを知っていますか?

きっかけは今年の夏、一人の高校生からの提案でした。「自分が読んで泣けた本を、他の人に紹介したい!」との熱い想いを受けて始まった特設・ミニコーナーでしたが、その後の反響がとても良く、自分もやってみたいという問い合わせも聞かれるようになったため、本年度から常設の書棚を用意することにしました。

これまで取り上げたテーマは、「泣ける本」「心にグッと刺さる本」「生きる本」「自分に色をたててくれた本」「人生のバイブル」などで、人生を豊かにしてくれる作品が多いです。

おすすめの本の申し込みは、一度につき1つのテーマで、5冊以上10冊以内、うち少なくとも1冊は自作のPOPを添えるという約束で、実名でも匿名でも何度でも、随時受け付けています。

我こそはと思う人、目立ちたくないけど感想を共有したい人等々、本に懸ける情熱をぜひ発信してみてください!男子生徒の参加も待っています!(下の写真は今までの「生徒おすすめの本」ミニ展示コーナー)



【LGBTQ+ 性の多様性について考えよう!】

書名	著者名	出版者
彼女。:百合小説アンソロジー	相沢 沙呼	講談社
息子のボーイフレンド	秋吉 理香子	文藝春秋
彼女が好きなのはホモであって僕ではない	浅原 ナオト	合同出版
#塚森裕太がログアウトしたら	浅原 ナオト	新日本出版社
逝年	石田 衣良	祥伝社
ミッドナイトスワン	内田 英治	双葉社
きらきらひかる	江國香織	U-NEXT
にじいろガーデン	小川糸	KADOKAWA
ぼくたちのリアル	戸森 しるこ	講談社
ロマンシエ	原田 マハ	幻冬舎
片想い	東野 圭吾	講談社
プリンセス・トヨトミ	万城目学	かもがわ出版
仮面の告白	三島 由紀夫	文藝春秋
海辺のカフカ	村上春樹	太田出版
キッチン	吉本 ばなな	新潮社
生のみ生のままで	綿矢 りさ	天夢人
ぼくがスカートをはく日	エイミ・ポロンスキー	集英社
ウィル・グレイソン、ウィル・グレイソン	ジョン・グリーン	集英社
兄の名はジェシカ	ジョン・ボイン	筑摩書房
保健室のアン・ウニョン先生	チョン・セラ	岩波書店

図書館にあるLGBTQ+関連小説

書物を通して、性的少数者について理解を深め、性の多様性を尊重し、自分らしく生きることを考えてもらえればと思います。みんなが生きやすい社会を目指して…。

【今年の七夕は、ハート型短冊で願いを♡】

今年も図書館内に笹を用意して、4~7日は七夕飾りをします!! 短冊は、図書委員の有志がハート型に作ってくれました。願い事が書かれた色とりどりのこの短冊は、神社に持って行ってお焚き上げをしています。(右写真は今年の七夕飾りのものです。)

6月はLGBTQ+の権利について啓発を促す「プライド月間」でした。1969年6月にアメリカで起きた「ストーンウォールの反乱」を記念し、世界中でLGBTQ+に関するイベントが行われるようになりました。

図書館でも、『LGBTって何だろう?』『スカートをはかなく

やダメですか?』などLGBTQ+についてわかりやすく解説した資料から、『息子のボーイフレンド』『元女子高生、パパになる』『すきっていわなくやだめ?』『弟の夫』といった小説、エッセイ、絵本、コミックまで幅広く集めた展示を行いました。期間中は、興味を持って見てくれる生徒も多く、本の貸し出しもたくさんありました。

